



## T I P 構法とは

(財) 性能保証住宅登録機構  
研究技術課長 松崎 謙一

平成2年10月4日付けの朝日新聞で、静岡県熱海においてこの構法を用いて、住宅が造られたことが報道されました。この構法は、東京工芸大学の上西秀夫先生が自らの研究室で昭和58年4月以来「在来軸組構法による木造建物の構法開発に関する研究」を続けて、平成元年10月に熊本で開催された日本建築学会の秋の大会で発表して一段落したものです。

そこで、この「T I P 構法」を運営している日本T I P 建築協会の長島専務理事のお話を伺い、頂いた資料をもとに簡単に紹介します。

まず、この構法の特徴はというと①筋かいの端部を、三角形の構造用合板と釘を用いて柱と横架材の両方に接合し、②外壁下地板を斜め45度に張ることによって建物の耐震性を著しく向上させるということです。「地震国」である我が国にとって画期的な発案といえるでしょう。

「T I P」の名称由来は二つあり、ひとつは、三角形の(Triangular)接合用(Incorporate)合板(Plywood)を用いたという構法からきており、もうひとつは、上西先生の学校である東京工芸大学の英文名Tokyo Institute of Polytechnicのイニシャルをとったところからきているそうです。

構法施工実績として、平成4年12月20日現在、日本T I P 建築協会の資料では、熱海の住宅を第1号として全国で77棟の数が増えられており、都道府県別では次の通りとなっています。

都道府県名	東 京	神奈川	静 岡	千 葉	埼 玉	京 都	愛 知
施工棟数	16	29	2	4	12	5	2

都道府県名	山 梨	香 川	高 知	鹿児島	福 島	宮 城	合 計
施工棟数	2	1	1	1	1	1	77